

2016/7/21

柏の景気情報（平成28年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年6月分）

○ 調査期間 : 平成28年6月24日 ~ 平成28年7月7日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	80	51.3%
建設	44	22	50.0%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	36	13	36.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年6月の調査結果のポイント】

◀業況DIはやや回復。先行きは景気の不透明感から慎重な見方が続く▶

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.8(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲61.1)、卸小売業▲51.8(同▲60.0)で、特に製造業はマイナス幅が25.9ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.0(同±0.0)である。

【建設業】からは、「熊本地震の影響で、地震対策の相談が急増している。」(一般土木建築工事業)、「予定が延期・中止になる物件があり、依然として現在も先行きは不透明な状態。公共工事に関しては専門工事業であり、震災後はほぼ皆無の状態。改修物件が出ないか期待している。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「最近の天候不順により施工が順調にいかず、6月は売上減少となった。その結果、工程ずれによるしわ寄せや、現場での作業時間、日数の融通がきかない為、7月はより忙しく、人手不足となりそう。」(その他の職別工事業)、「梅雨入りにより畳工事の日程がずれ込んだため売上が減少したが、畳縁(へり)バッグの売上は好調。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「社員教育に注力し続けたことにより、従業員一人ひとりの自主性が芽生え、成果に繋がっている。今年度はHPの更新や設備の修繕などにも力を入れ、HPからの問い合わせが前年対比10%アップしている。」(その他のプラスチック製品製造業)、「経済の流れは大企業中心の考察情報が基準となっている。その中で零細企業はどんな環境にも適応して生き残る技術を磨き、乗り切って行きたい。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「ここ最近の業況は一般紙等でも書かれている通り、衣料品業界はひどい状況にある。デパート等の売り場面積縮小、大手衣料品販売業者も値下げに踏み切るなどの対応をしており、中小のメーカーも廃業を考えている所が多い。」(婦人・子供服小売業)、「最近の市内の状況は、量販店等が多数出店し、生活者にとっては選択する幅が増えており、事業者側は激戦を強いられている様に感じる。青果卸業としては生鮮食品の需要と供給の対応が難しくなってきた。また、一部産地では水不足や端境期で不足品が出ている。不安定な天候とこれからの夏商材にトウモロコシや枝豆など期待に応えられるように産地との情報交換をもって努力している。」(食料・飲料卸売業)、「夏に向け冷菓の需要が増えてきているが昨年より勢いがいい。」(菓子・パン小売業)、「衣料品は父の日ギフトで紳士衣料、紳士パジャマなどは好調に推移。高齢者用の介護用品などは30%伸びたが、店全体の売上は前年度を下回る。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「市場にて食材の仕入を行っているが、全ての食材が当方が求める品質ほど値段が見合わなくなってきた。仕入先を変更し、別の食材問屋との取引を少しずつ開始している。」(酒場・ビヤホール)、「反響数は不変だが、契約数・価格ともに増えてきている。低金利が良い影響となって業況を下支えしているものと思われる。」(不動産管理業)、「旅行を取り巻く社会経済状況と消費傾向より、旅行意欲は高いものの、支出は慎重になっている。8/11が山の日になり、製造業を中心に旧盆の休暇を11日から取るなど、比較的連続した休みが取りやすい状況。4月の熊本地震の影響から、九州方面の宿泊者数は減少。しかしながら、地震後初の夏休みには、帰省やボランティアへの参加など様々な目的で九州に出かける人が多いと考えられる。また、北海道新幹線開業に伴い北海道や東北が注目されている。海外は円高・燃油サーチャージ0円により、海外旅行者数は増加予測。台湾、タイ、スペイン、ポルトガル、北米、ファミリーにオセアニアが人気。全体的には景況感を反映して、アジアを中心に近場が増えそう。」(旅行業)「消費税の納税額が増えて資金繰りが悪化。」(不動産賃貸業・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎受注減少・受注単価下落

各業種より、「見積もりの額が下げられる傾向にある。品質の保持に努力している。」(電気工事業)、「材料単価は上げ止まりとなり落ち着いたものの、施工単価が下がっている。オリンピックに向けてホテル等の建設も出てはいるが、やはり施工単価が厳しい状況となっている。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「展示会の効果により突発的な受注があったが継続性はないと思われる。引き続き新規の売り込み営業が多く、機械加工業界全体が冷え込んでいる印象がある。」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安(英EU離脱等)

各業種より、「イギリスのEU離脱による影響を懸念している。」(その他の機械・同部品製造業)、「6月は自店企画にてやや売上が良かったが、全体的に個人消費は下がっており、7月の参議院選挙を控えて結果が出るまで人の動きは鈍りそう。イギリスのEU離脱が今後どの様に日本経済に響いてくるか予想がつかない。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)などのコメントが寄せられた。

◎競争激化(出店ラッシュ)

各業種より、「柏地区にスーパーマーケットが短期間にこれだけ出店してきた事は、ここ30年で初めての事と思われる。他店との差別化をより進めなければならないと感じている。個人消費が好調なのは一部のみで多くの人々は税金等の増加で可処分所得は増えていないと感じている。一時期の円高で長期的には食品は安くなる可能性はあるが、安売り合戦に陥ってしまう危険性もある。」(各種食料品小売業)、「大型SCやスーパー等の開店ラッシュの影響があった。」(菓子・パン小売業)、「駅前競合店増加により、食料品中心に影響があった。」(その他の各種商品小売業)、「柏市北西部のスーパー移転跡地にホームセンターがオープン。これで柏の葉西口から江戸川台の狭い地域にスーパー6店舗に、おたかの森から柏の葉スーパー2店舗とホームセンター2店舗が加わり、特売合戦で客の争奪戦が始まり、客の流れが変わってかなり厳しい。人手不足のため、時給を上げて各職場に余裕を持って人員を配置した結果、マイナス決算となる。募集をしても応募が状況が当面も続きそう。」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
見通し	▲11.3	±0.0	△5.8	▲37.0	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.8(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。

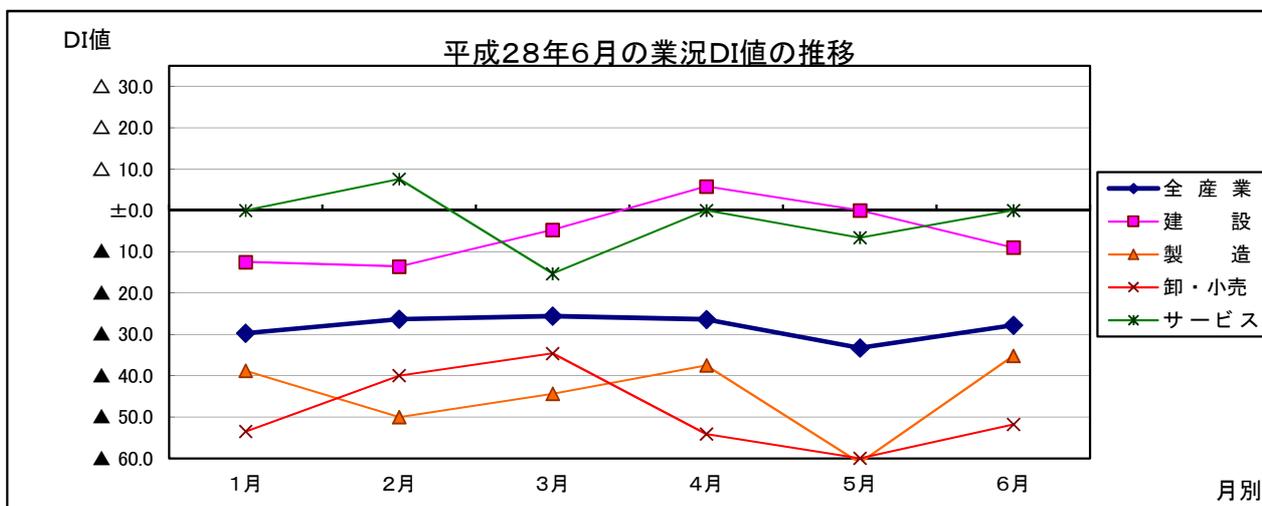
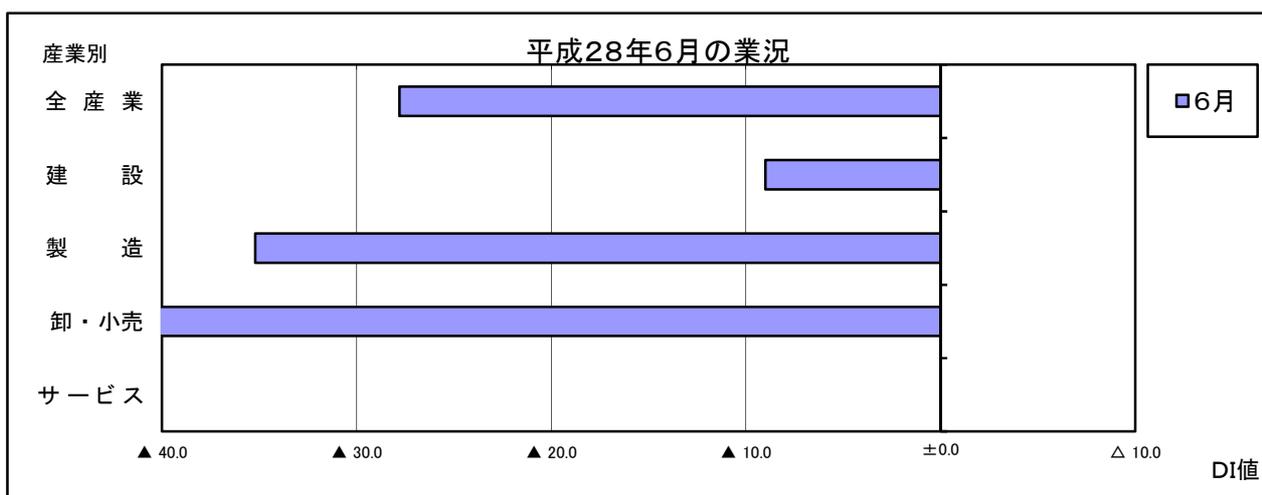
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲61.1)、卸小売業▲51.8(同▲60.0)で、特に製造業はマイナス幅が25.9ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.0(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.3(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が4.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△5.8(同▲5.5)、サービス業±0.0(同▲6.6)、建設業±0.0(同▲4.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲37.0(同▲40.0)である。

平成28年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲29.7	▲26.3	▲25.6	▲26.4	▲33.3	▲27.8	▲11.3(▲16.0)
建設	▲12.5	▲13.6	▲4.7	△5.8	±0.0	▲9.0	±0.0(▲4.3)
製造	▲38.8	▲50.0	▲44.4	▲37.5	▲61.1	▲35.2	△5.8(▲5.5)
卸・小売	▲53.5	▲40.0	▲34.6	▲54.1	▲60.0	▲51.8	▲37.0(▲40.0)
サービス	±0.0	△7.6	▲15.3	±0.0	▲6.6	±0.0	±0.0(▲6.6)



【平成28年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.2(同▲27.1)であり、マイナス幅が6.9ポイント縮小した。

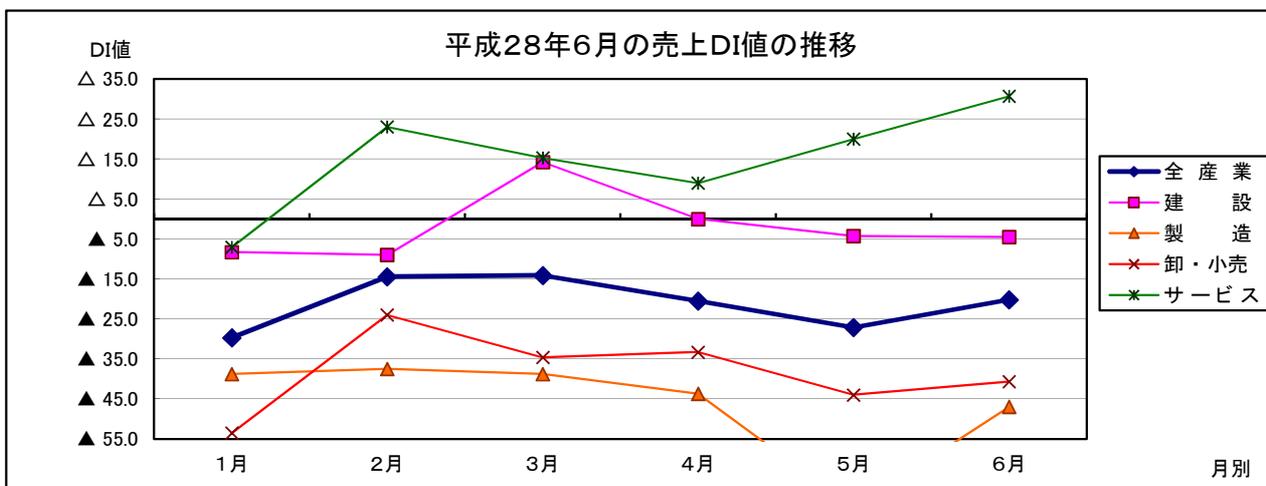
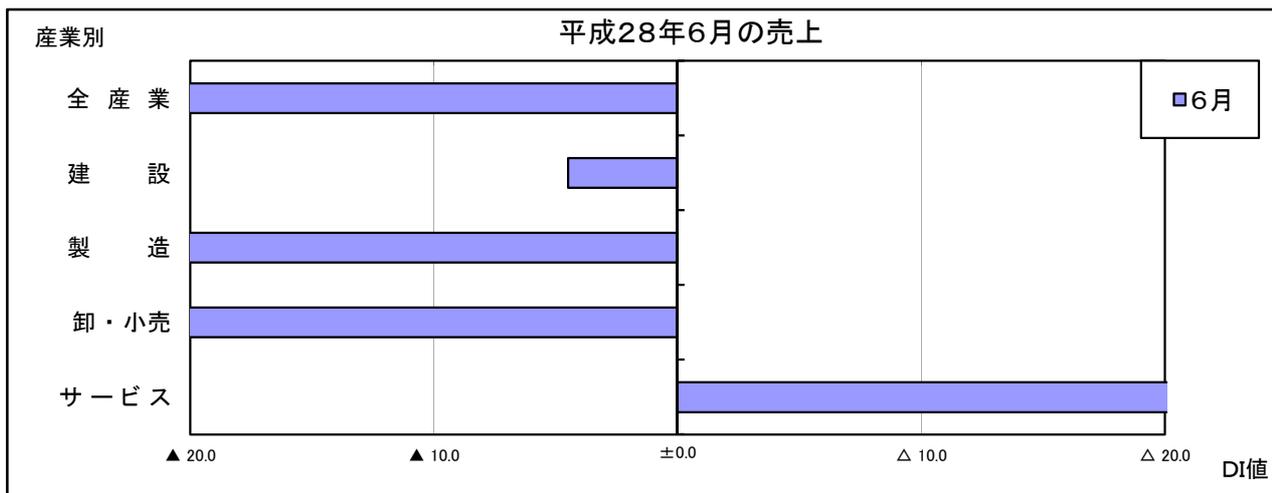
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△30.7(同△20.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲47.0(同▲72.2)、卸小売業▲40.7(同▲44.0)であり、特に製造業はマイナス幅が25.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲4.5(同▲4.3)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.9(前月水準△3.7)となり、プラスからマイナスに転じる見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△4.5(同△17.3)、サービス業△15.3(同△20.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲11.7(同△16.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲44.4(同▲28.0)である。

平成28年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲29.7	▲14.4	▲14.1	▲20.5	▲27.1	▲20.2	▲13.9(△3.7)
建設	▲8.3	▲9.0	△14.2	±0.0	▲4.3	▲4.5	△4.5(△17.3)
製造	▲38.8	▲37.5	▲38.8	▲43.7	▲72.2	▲47.0	▲11.7(△16.6)
卸・小売	▲53.5	▲24.0	▲34.6	▲33.3	▲44.0	▲40.7	▲44.4(▲28.0)
サービス	▲7.1	△23.0	△15.3	△9.0	△20.0	△30.7	△15.3(△20.0)



【平成28年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.6(前月水準▲27.1)となり、マイナス幅が4.5ポイント拡大した。

業種別では、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△7.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲41.1(同▲44.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55.5(同▲44.0)、建設業▲18.1(同▲13.0)である。

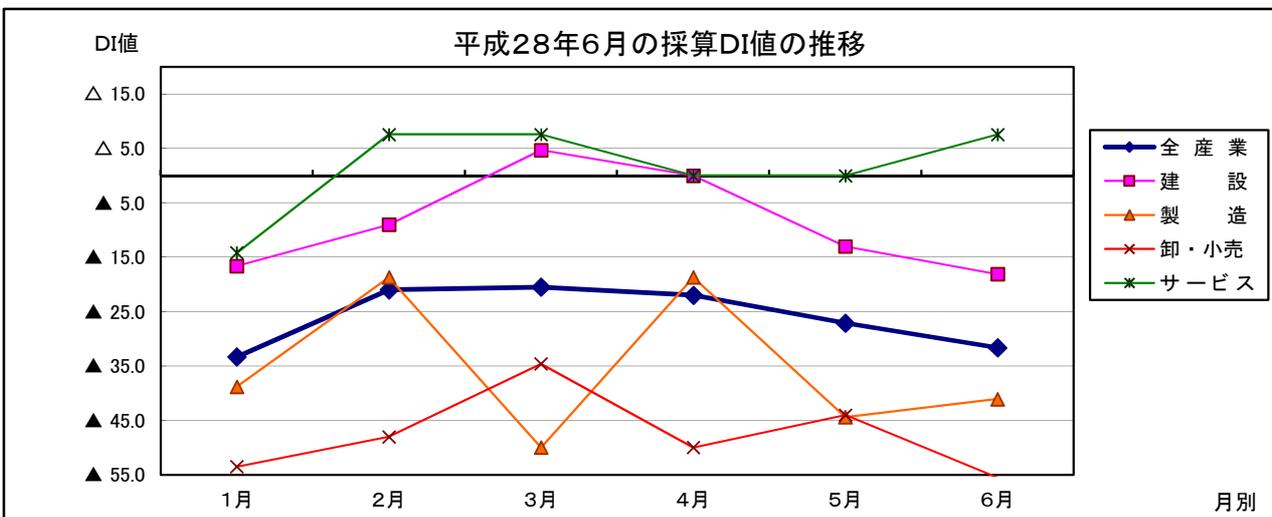
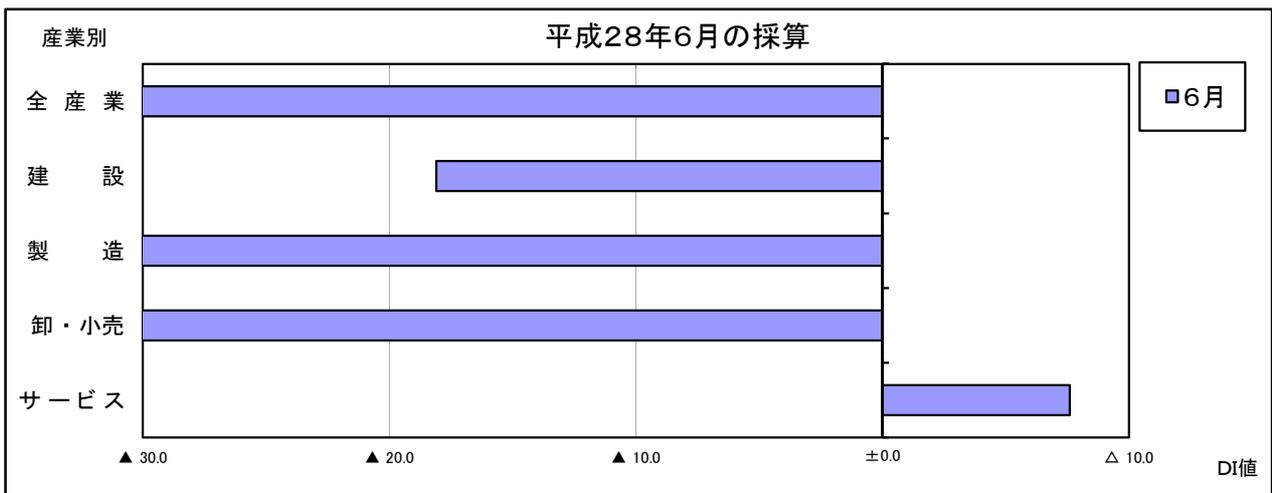
○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.7(前月水準▲13.5)であり、マイナス幅が4.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△7.6(同△6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲4.5(同▲8.6)である。

マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲5.5)、卸小売業▲44.4(同▲36.0)であり、である。

平成28年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲33.3	▲21.0	▲20.5	▲22.0	▲27.1	▲31.6	▲17.7(▲13.5)
建設	▲16.6	▲9.0	△4.7	±0.0	▲13.0	▲18.1	▲4.5(▲8.6)
製造	▲38.8	▲18.7	▲50.0	▲18.7	▲44.4	▲41.1	▲11.7(▲5.5)
卸・小売	▲53.5	▲48.0	▲34.6	▲50.0	▲44.0	▲55.5	▲44.4(▲36.0)
サービス	▲14.2	△7.6	△7.6	±0.0	±0.0	△7.6	△7.6(△6.6)



【平成28年6月の仕入単価についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.9(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅が3.3ポイント縮小した。

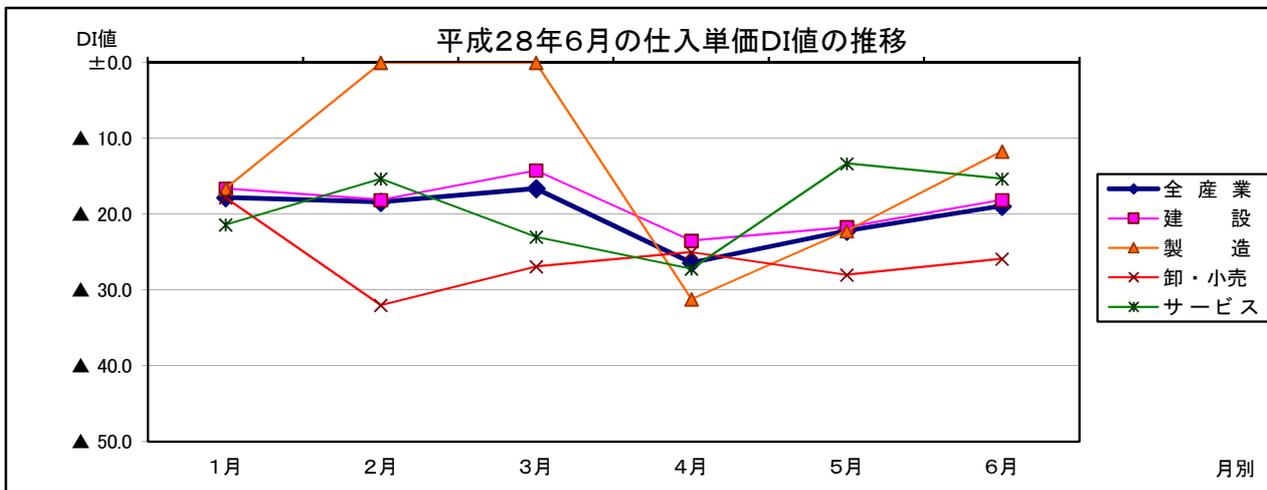
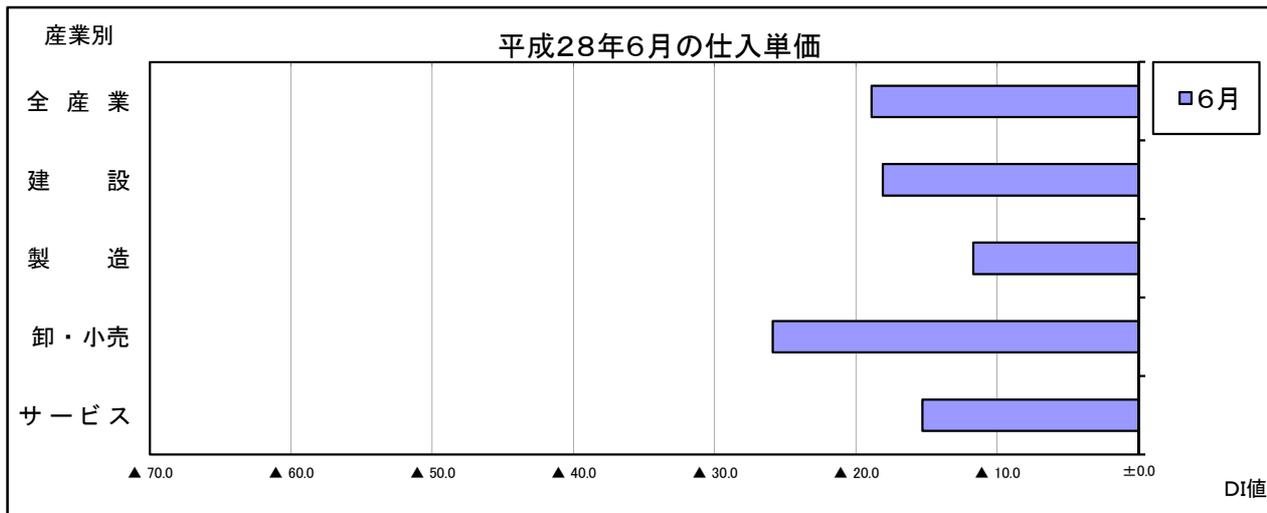
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.7(同▲22.2)、建設業▲18.1(同▲21.7)、卸小売業▲25.9(同▲28.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲15.3(同▲13.3)、である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.2(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が0.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲9.0(同▲13.0)、卸小売業▲22.2(同▲24.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲23.5(同▲16.6)、サービス業▲30.7(同▲26.6)である。

平成28年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲17.8	▲18.4	▲16.6	▲26.4	▲22.2	▲18.9	▲20.2(▲19.7)
建設	▲16.6	▲18.1	▲14.2	▲23.5	▲21.7	▲18.1	▲9.0(▲13.0)
製造	▲16.6	±0.0	±0.0	▲31.2	▲22.2	▲11.7	▲23.5(▲16.6)
卸・小売	▲17.8	▲32.0	▲26.9	▲25.0	▲28.0	▲25.9	▲22.2(▲24.0)
サービス	▲21.4	▲15.3	▲23.0	▲27.2	▲13.3	▲15.3	▲30.7(▲26.6)



【平成28年6月の従業員についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△11.3(前月水準△4.9)となり、プラス幅が6.9ポイント拡大した。

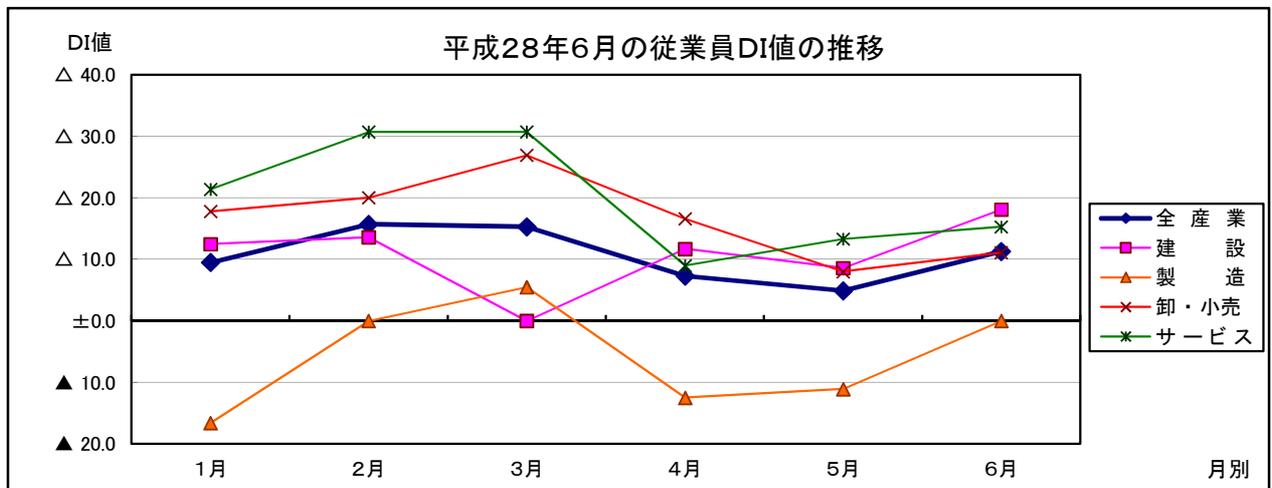
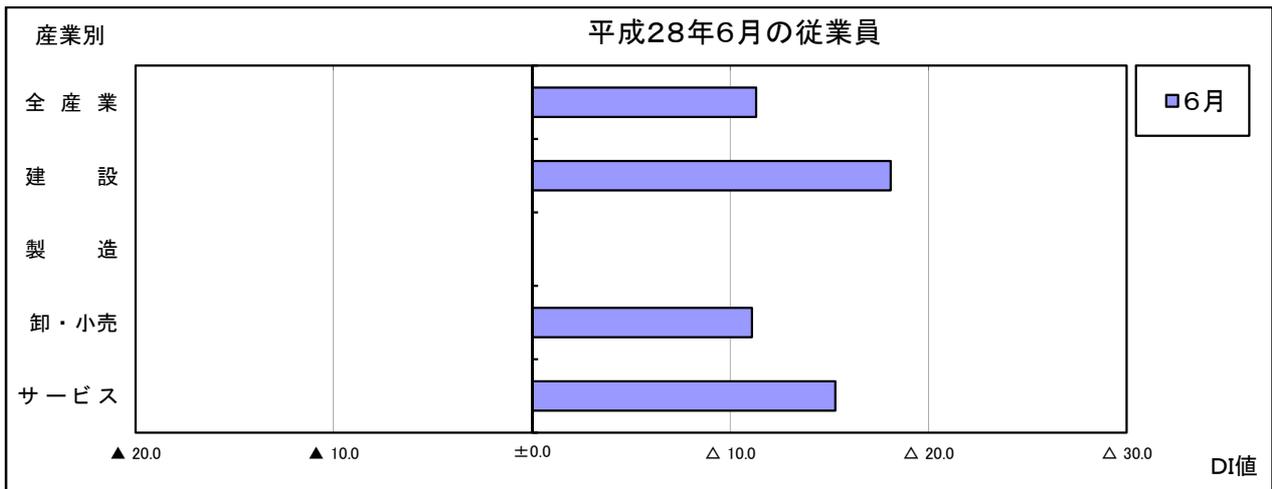
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△18.1(同△8.6)、卸小売業△11.1(同△8.0)、サービス業△15.3(同△13.3)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲11.1)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.7(前月水準△6.1)であり、プラス幅が11.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△27.2(同△4.3)、卸小売業△25.9(同△12.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.8(同▲11.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△15.3(同△20.0)である。

平成28年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△9.5	△15.7	△15.3	△7.3	△4.9	△11.3	△17.7(△6.1)
建設	△12.5	△13.6	±0.0	△11.7	△8.6	△18.1	△27.2(△4.3)
製造	▲16.6	±0.0	△5.5	▲12.5	▲11.1	±0.0	▲5.8(▲11.1)
卸・小売	△17.8	△20.0	△26.9	△16.6	△8.0	△11.1	△25.9(△12.0)
サービス	△21.4	△30.7	△30.7	△9.0	△13.3	△15.3	△15.3(△20.0)



【平成28年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.4(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が0.4ポイント拡大した。

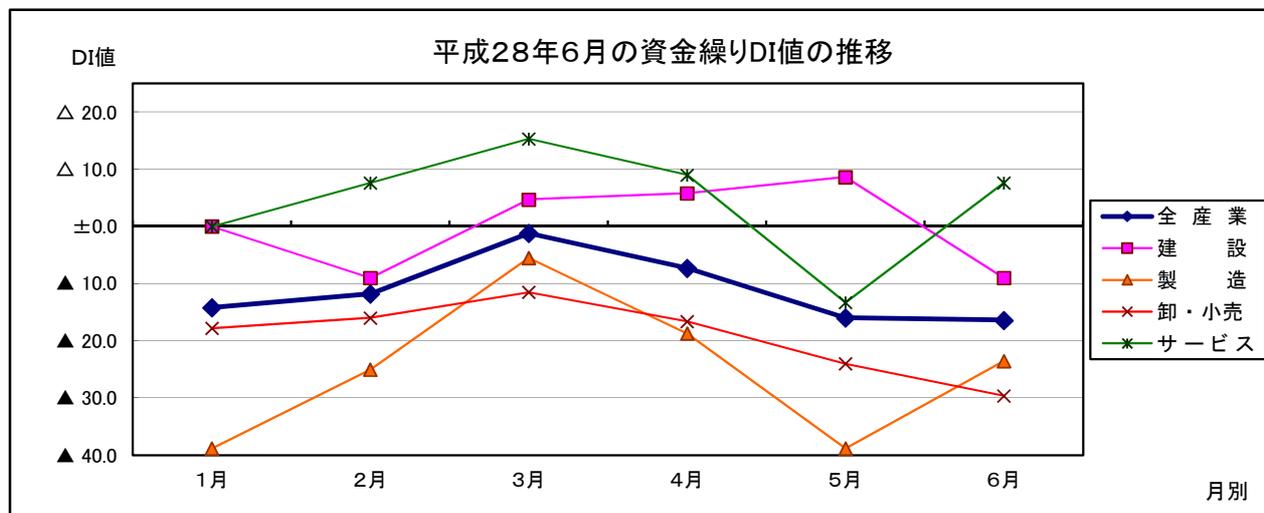
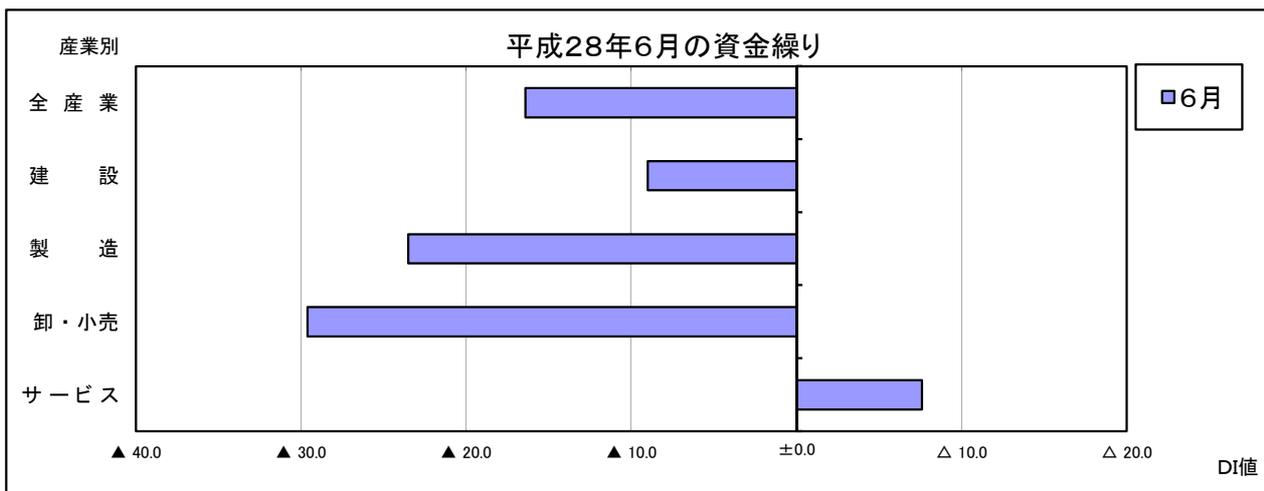
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△7.6(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲23.5(同▲38.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.0(同△8.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲29.6(同▲24.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.3(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が3.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲16.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22.2(同▲28.0)である。変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△4.5(同△8.6)である。

平成28年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲14.2	▲11.8	▲1.2	▲7.3	▲16.0	▲16.4	▲6.3(▲9.8)
建設	±0.0	▲9.0	△4.7	△5.8	△8.6	▲9.0	△4.5(△8.6)
製造	▲38.8	▲25.0	▲5.5	▲18.7	▲38.8	▲23.5	±0.0(▲16.6)
卸・小売	▲17.8	▲16.0	▲11.5	▲16.6	▲24.0	▲29.6	▲22.2(▲28.0)
サービス	±0.0	△7.6	△15.3	△9.0	▲13.3	△7.6	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.2	▲ 13.9	▲ 31.6	▲ 17.7	▲ 18.9	▲ 20.2	△ 11.3	△ 17.7
建設	▲ 4.5	△ 4.5	▲ 18.1	▲ 4.5	▲ 18.1	▲ 9.0	△ 18.1	△ 27.2
製造	▲ 47.0	▲ 11.7	▲ 41.1	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 23.5	±0.0	▲ 5.8
卸・小売	▲ 40.7	▲ 44.4	▲ 55.5	▲ 44.4	▲ 25.9	▲ 22.2	△ 11.1	△ 25.9
サービス	△ 30.7	△ 15.3	△ 7.6	△ 7.6	▲ 15.3	▲ 30.7	△ 15.3	△ 15.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.8	▲ 11.3	▲ 16.4	▲ 6.3
建設	▲ 9.0	±0.0	▲ 9.0	△ 4.5
製造	▲ 35.2	△ 5.8	▲ 23.5	±0.0
卸・小売	▲ 51.8	▲ 37.0	▲ 29.6	▲ 22.2
サービス	±0.0	±0.0	△ 7.6	±0.0

【平成28年4月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	熊本地震の影響で、地震対策の相談が急増している。	熊本地震	一般土木建築工事業
	予定が延期・中止になる物件があり、依然として現在も先行きは不透明な状態。公共工事に関しては専門工事業であり、震災後はほぼ皆無の状態。改修物件が出ないか期待している。	先行き不安 受注減少	石工れんがタイルブロック工事業
	見積り額の額が下げられる傾向にある。品質の保持に努力している。	受注単価下落	電気工事業
	材料単価は上げ止まりとなり落ち着いたものの、施工単価が下がっている。オリンピックに向けてホテル等の建設も出てはいるが、やはり施工単価が厳しい状況となっている。最近の天候不順により施工が順調にいかず、6月は売上減少となった。その結果、工程ずれによるしわ寄せや、現場での作業時間、日数の融通がきかない為、7月はより忙しく、人手不足となりそう。	受注単価下落 人手不足 天候不順	その他の職別工事業
	梅雨入りにより畳工事の日程がずれ込んだため売上が減少したが、畳縁(ヘリ)バッグの売上は好調。	天候不順	内装工事業
製造業	展示会の効果により突発的な受注があったが継続性はないと思われる。引き続き新規の売り込み営業が多く、機械加工業界全体が冷え込んでいる印象がある。	受注減少 先行き不安	その他の機械・同部品製造業
	イギリスのEU離脱による影響を懸念している。	イギリスEU離脱	酒類製造業
	社員教育に注力し続けたことにより、従業員一人ひとりの自主性が芽生え、成果に繋がっている。今年度はHPの更新や設備の修繕などにも力を入れ、HPからの問い合わせが前年対比10%アップしている。	生産性向上	その他のプラスチック製品製造業
	経済の流れは大企業中心の考察情報が基準となっている。その中で零細企業はどんな環境にも適応して生き残る技術を磨き、乗り切っていく。		印刷業
卸小売	ここ最近の業況は一般紙等でも書かれている通り、衣料品業界はひどい状況にある。デパート等の売り場面積縮小、大手衣料品販売業者も値下げに踏み切るなどの対応をしており、中小のメーカーも廃業を考えている所が多い。	値下げ 利幅減少	婦人・子供服小売業
	6月は自店企画にてやや売上が良かったが、全体的に個人消費は下がっており、7月の参議院選挙を控えて結果が出るまで人の動きは鈍りそう。イギリスのEU離脱が今後どの様に日本経済に響いてくるか予想がつかない。	個人消費低調 イギリスEU離脱	時計・眼鏡・光学機械小売業
	国道沿いにオープンした大型店の影響で、地元スーパーに影響があった。	大型店出店 競争激化	書籍・文房具小売業
	柏地区にスーパーマーケットが短期間にこれだけ出店してきた事は、ここ30年で初めての事と思われる。他店との差別化をより進めなければならないと感じている。個人消費が好調なのは一部のみで多くの人々は税金等の増加で可処分所得は増えていないと感じている。一時期の円高で長期的には食品は安くなる可能性はあるが、安売り合戦に陥ってしまう危険性もある。	競争激化 個人消費低調 円高	各種食料品小売業
	最近の市内の状況は、量販店等が多数出店し、生活者にとっては選択する幅が増えており、事業者側は激戦を強いられている様に感じる。青果卸業としては生鮮食品の需要と供給の対応が難しくなっている。また、一部産地では水不足や端境期で不足品が出ている。不安定な天候とこれからの夏商材にトウモロコシや枝豆など期待に応えられるように産地との情報交換をもって努力している。	競争激化 天候不順	食料・飲料卸売業
	夏に向け冷菓の需要が増えてきているが昨年より勢いが弱い。		菓子・パン小売業
	大型SCやスーパー等の開店ラッシュの影響があった。	大型店出店 競争激化	菓子・パン小売業
	駅前競合店増加の影響は食品中心にある。衣料品は父の日ギフトで紳士衣料、紳士パジャマなどは好調に推移。高齢者用の介護用品などは30%伸びたが、店全体の売上は前年度を下回る。	大型店出店 競争激化	その他の各種商品小売業
サービス業	市場にて食材の仕入を行っているが、全ての食材が当方が求める品質ほど値段が見合わなくなっている。仕入先を変更し、別の食材問屋との取引を少しずつ開始している。	仕入先変更 利益減少	酒場・ビヤホール
	反響数は不変だが、契約数・価格ともに増えてきている。低金利が良い影響となって業況を下支えしているものと思われる。	受注増加 低金利	不動産管理業
	柏市北西部のスーパー移転跡地にホームセンターがオープン。これで柏の葉西口から江戸川台の狭い地域にスーパー6店舗に、おたかの森から柏の葉スーパー2店舗とホームセンター2店舗が加わり、特売合戦で客の争奪戦が始まり、客の流れが変わってかなり厳しい。人手不足のため、時給を上げて各職場に余裕を持って人員を配置した結果、マイナス決算となる。募集をしても応募が状況が当面も続きそう。	大型店出店 競争激化 人手不足 利益減少	その他の飲食料品小売業
	旅行を取り巻く社会経済状況と消費傾向より、旅行意欲は高いものの、支出は慎重になっている。8/11が山の日になり、製造業を中心に旧盆の休暇を11日から取るなど、比較的連続した休みが取りやすい状況。4月の熊本地震の影響から、九州方面の宿泊者数は減少。しかしながら、地震後初の夏休みには、帰省やボランティアへの参加など様々な目的で九州に出かける人が多いと考えられる。また、北海道新幹線開業に伴い北海道や東北が注目されている。海外は円高・燃油サーチャージ0円により、海外旅行者数は増加予測。台湾、タイ、スペイン、ポルトガル、北米、ファミリーにオセアニアが人気。全体的には景況感を反映して、アジアを中心に近場が増えそう。	個人消費低調 熊本地震	旅行業
消費税の納税額が増えて資金繰りが悪化。	消費税増税 資金繰り悪化	不動産賃貸業・管理業	

◎受注減少・受注単価下落

各業種より、「見積もりの額が下げられる傾向にある。品質の保持に努力している。」(電気工事業)、「材料単価は上げ止まりとなり落ち着いたものの、施工単価が下がっている。オリンピックに向けてホテル等の建設も出てはいるが、やはり施工単価が厳しい状況となっている。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「展示会の効果により突発的な受注があったが継続性はないと思われる。引き続き新規の売り込み営業が多く、機械加工業界全体が冷え込んでいる印象がある。」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安(英EU離脱等)

各業種より、「イギリスのEU離脱による影響を懸念している。」(その他の機械・同部品製造業)、「6月は自店企画にてやや売上が良かったが、全体的に個人消費は下がっており、7月の参議院選挙を控えて結果が出るまで人の動きは鈍りそう。イギリスのEU離脱が今後どの様に日本経済に影響してくるか予想がつかない。」(時計・眼鏡・光学機械小売業)などのコメントが寄せられた。

◎競争激化(出店ラッシュ)

各業種より、「柏地区にスーパーマーケットが短期間にこれだけ出店してきた事は、ここ30年で初めての事と思われる。他店との差別化をより進めなければならないと感じている。個人消費が好調なのは一部のみで多くの人々は税金等の増加で可処分所得は増えていないと感じている。一時期の円高で長期的には食品は安くなる可能性はあるが、安売り合戦に陥ってしまう危険性もある。」(各種食料品小売業)、「大型SCやスーパー等の開店ラッシュの影響があった。」(菓子・パン小売業)、「駅前競合店増加により、食料品中心に影響があった。」(その他の各種商品小売業)、「柏市北西部のスーパー移転跡地にホームセンターがオープン。これで柏の葉西口から江戸川台の狭い地域にスーパー6店舗に、おたかの森から柏の葉スーパー2店舗とホームセンター2店舗が加わり、特売合戦で客の争奪戦が始まり、客の流れが変わってかなり厳しい。人手不足のため、時給を上げて各職場に余裕を持って人員を配置した結果、マイナス決算となる。募集をしても応募が状況が当面も続きそう。」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

平成28年6月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.8に対し、「CCI-LOBO」が▲24.8で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.2に対し、「CCI-LOBO」が▲21.5で柏の方がマイナス幅が1.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.6に対し、「CCI-LOBO」が▲20.6で柏の方がマイナス幅が11.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業と卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.9に対し、「CCI-LOBO」が▲21.5で柏の方がマイナス幅が2.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△11.3に対し、「CCI-LOBO」が△14.2で柏の方がプラス幅が2.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.4に対し、「CCI-LOBO」が▲12.1で柏の方がマイナス幅が4.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業では10ポイント以上悪い。

平成28年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.8	 ▲ 9.0	 ▲ 35.2	 ▲ 51.8	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 24.8	 ▲ 22.5	 ▲ 22.1	 ▲ 39.9	 ▲ 12.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.2	 ▲ 4.5	 ▲ 47.0	 ▲ 40.7	 △ 30.7
CCI-LOBO	 ▲ 21.5	 ▲ 16.1	 ▲ 15.8	 ▲ 38.5	 ▲ 10.9

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 31.6	 ▲ 18.1	 ▲ 41.1	 ▲ 55.5	 △ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 20.6	 ▲ 14.0	 ▲ 16.7	 ▲ 36.3	 ▲ 12.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.9	 ▲ 18.1	 ▲ 11.7	 ▲ 25.9	 ▲ 15.3
CCI-LOBO	 ▲ 21.5	 ▲ 20.2	 ▲ 13.1	 ▲ 23.7	 ▲ 28.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 11.3	 △ 18.1	 ±0.0	 △ 11.1	 △ 15.3
CCI-LOBO	 △ 14.2	 △ 13.2	 △ 5.5	 △ 18.7	 △ 22.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.4	 ▲ 9.0	 ▲ 23.5	 ▲ 29.6	 △ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 9.8	 ▲ 9.4	 ▲ 22.9	 ▲ 9.9

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(6月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年6月24日～7月7日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数80件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲29.7	▲12.5	▲38.8	▲53.5	±0.0
2月	▲26.3	▲13.6	▲50.0	▲40.0	△7.6
3月	▲25.6	▲4.7	▲44.4	▲34.6	▲15.3
4月	▲26.4	△5.8	▲37.5	▲54.1	±0.0
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
見通し	▲11.3	±0.0	△5.8	▲37.0	±0.0

「見通し」は今月の水準と比較した向う3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市」の業況

業況D Iはやや回復。先行きは景気の不透明感から、慎重な見方が続く。

6月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲27.8(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が5.5ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲61.1)、卸・小売業▲51.8(同▲60.0)で、特に製造業はマイナス幅が25.9ポイ

ントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.0(同±0.0)である。

【建設業】からは、「熊本地震の影響で、地震対策の相談が急増。」(一般土木建築工事業)、「予定が延期・中止になる物件があり、依然として現在も先行きは不透明な状態。改修物件が出ないか期待している。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「最近の天候不順により6月は売上減少となった。その結果、工程ずれによるしわ寄せにより、7月はより忙しく、人手不足となりそう。」(その他の職別工事業)、「梅雨入りにより畳工事の日程がずれ込んだため売上が減少したが、畳縁バッグの売上は好調。」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「衣料品業界は、大手・デパート等が売場面積縮小、値下げに踏み切るなどの対応をしており、中小のメーカーも廃業を検討している所が多い。」(婦人・子供服小売業)、「生鮮食品の需要と供給の対応が難しくなってきた。また、一部産地では水不足で不足品が出ている。不安定な天候の中で、夏商材を揃えられるように努力している。」(食料・飲料卸売業)、「夏に向け冷菓の需要が増えてきているが昨年より勢いがでない。」(菓子・パン小売業)、「父の日ギフトで紳士衣料は好調。高齢者用の介護用品などは30%伸びたが、店全体の売上は前年度を下回る。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「市場から食材を仕入れているが、品質と値段が見合わなくなってきた。別の食材問屋との取引を開始している。」(酒場・ビヤホール)、「低金利が良い影響となり、契約数が増加。」(不動産管理業)、「旅行意欲は高いものの、支出は慎重になっている。祝日が増えた事で、連休が取りやすい状況になった。熊本地震の影響から、九州方面の宿泊者数は減少したが、帰省やボランティアへの参加などで九州に出かける人が多いと考えられる。」(旅行業)「消費税の納税額が増えて資金繰りが悪化。」(不動産賃貸業・管理業)などのコメントが寄せられた。

6月の景気キーワード

◎受注減少・受注単価下落

各業種より、「見積もり金額が下げられる傾向にある。品質の保持に努力している。」(電気工事業)、「施工単価が下がっている。五輪に向けてホテル等の建設も出てはいるが、やはり施工単価が厳しい状況。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「展示会の効果により受注があったが継続性はないと思われる。引き続き新規の売り込み営業が多く、機械加工業界全体が冷え込んでいる印象がある。」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

各業種より、「イギリスのEU離脱による影響を懸念している。」(その他の機械・同部品製造業)、「6月は自店企画にてやや売上が良かったが、全体的に個人消費は下がっており、7月の参議院選挙を控えて結果が出るまで人の動きは鈍りそう。イギリスEU離脱が今後どの

CCI・LBOBとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲27.8に対し、「CCI・LBOB」が▲24.8

で柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業サービス業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上悪い。

「見通し」は今月の水準と比較した向う3ヶ月の先行き見通しD I

【製造業】からは、「社員教育に注力し、従業員の自主性が芽生え、成果に繋がっている。今年度はHPの更新や設備の修繕などにも力を入れ、HPからの問合せが前年対比10%アップしている。」(その他のプラスチック製品製造業)、「経済の流れは大企業中心の考察情報が基準となっている。その中で零細企業はどんな環境にも適応して生き残る技術を磨き、乗り切って行きたい。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「市場から食材を仕入れているが、品質と値段が見合わなくなってきた。別の食材問屋との取引を開始している。」(酒場・ビヤホール)、「低金利が良い影響となり、契約数が増加。」(不動産管理業)、「旅行意欲は高いものの、支出は慎重になっている。祝日が増えた事で、連休が取りやすい状況になった。熊本地震の影響から、九州方面の宿泊者数は減少したが、帰省やボランティアへの参加などで九州に出かける人が多いと考えられる。」(旅行業)「消費税の納税額が増えて資金繰りが悪化。」(不動産賃貸業・管理業)などのコメントが寄せられた。

各業種より、「イギリスのEU離脱による影響を懸念している。」(その他の機械・同部品製造業)、「6月は自店企画にてやや売上が良かったが、全体的に個人消費は下がっており、7月の参議院選挙を控えて結果が出るまで人の動きは鈍りそう。イギリスEU離脱が今後どの

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (6月速報)

調査期間：平成28年6月16日～22日

調査対象：全国の423商工会議所が2973企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、悪化。先行きも慎重な見方続き、ほぼ横ばいの動き

6月の全産業合計の業況DIは、▲24.8と、前月から▲2.0ポイントの悪化。なお、本調査期間は英国のEU離脱の決定前であることに留意が必要。人手不足や人件費の上昇が足かせとなる中、消費低迷の長期化や円高進行による受注減に加え、株価・為替の不安定な動きが中小企業のマインドを下押ししている。堅調な観光需要や、原材料価格の下落、春から値上がりしているものの依然として低い水準にある燃料費の恩恵を指摘する声は聞かれるが、中小企業の景況感足元で弱い動きがみられている。先行きについては、先行き見通しDIが▲24.6（今月比+0.2ポイント）とほぼ横ばいを見込む。夏の観光需要の拡大や、猛暑予測から飲料品や家電製品など夏物商品の販売増加、消費増税の再延期による消費者マインド改善を期待する声が聞かれる。他方、金融市場の不安定な推移などによる、インバウンドを含む消費の一段の悪化や設備投資の減少に対する懸念の

ほか、人手不足の影響拡大など、景気の不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続いている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事が低調なため、少ない案件を取り合い、同業他社と価格競争となつている。一方で燃料代は上昇傾向にあり、採算が悪化している」（土木工事業）「生コンクリート以外の建材価格は下落しており、特に中国の生産過剰により、鉄鋼価格の下落が目立つ」（建築工事業）「地元市町村は公共工事を早期発注しているため、売上は改善した。ただし、地域間で発注量に大幅な格差がある」（一般工事業）

【製造業】「熊本地震による製造ライン休止の影響がなくなり、業績は回復した。消費税率引上げの延期による、国内消費の好転を期待したい」（自動車部品製造業）「売上は順調に推移しているものの、原材料である豚肉などが高騰しているため、収益が圧迫されている」（食品製造業）「円高の進行によ

り、仕入価格減少等のメリットがある反面、外貨建の債権には為替差損が生じている」（電線・ケーブル製造業）

【卸売業】「業況、売上ともに堅調に推移しており、顧客からの増産要請に対応するため設備投資に乗り出した。しかし、設備費は数年前と比較して1.5～2倍程度となつており、資金繰りに苦慮」（繊維品卸売業）「天候不順などにより、農産物の品質が悪く、取扱数量は大幅に減少している。今後もこの傾向が続く見込み」（農産物卸売業）

【小売業】「個人消費の低迷は深刻であり、衣料品と高額品の売上は前年同月を下回っている。お中元商戦が売上回復の起爆剤となることを期待したい」（百貨店）「夏のセール待ちで衣料品を買い控える顧客が多く、依然として業況は厳しい」（商店街）

【サービス業】「夏に向けて飲料品の出荷量が増加してきたことを受け、売上は改善。また、足元の原油価格は上昇しているものの、前年比では依然として低水準にあり、採算もとれている」（運送業）「システム開発の引き合いは依然として多いが、人手不足のた

め応じきれず、売上の増加に結びつけられない」（ソフトウエア業）「「ジュニアブランド」の時期にもかかわらず、婚姻数の減少や競合激化で業況は厳しい」（写真業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲19.4	▲17.4	▲16.4	▲18.2	▲31.3	▲13.6
2月	▲22.8	▲18.2	▲23.8	▲19.7	▲34.0	▲15.5
3月	▲23.6	▲17.8	▲18.4	▲25.9	▲41.8	▲14.6
4月	▲21.0	▲18.8	▲16.2	▲31.3	▲32.0	▲12.7
5月	▲22.8	▲21.0	▲13.2	▲25.1	▲36.2	▲20.4
6月	▲24.8	▲22.5	▲22.1	▲30.4	▲39.9	▲12.5
見通し	▲24.6	▲19.0	▲24.3	▲28.0	▲37.4	▲14.9